

MMR タンパク		P000045		
		担当部署		
		病理		
検査オーダー				
患者同意 に関する要 求事項	該当なし			
オーダ リング 手順	1	サイボウズ→ファイル管理→54. 病理診断科→遺伝子解析依頼申請書→ 電子カルテ→指示①→検査→17.病理外注→項目選択→オーダーラベルを病理まで		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影 響する臨床 情報	1) 10%中性緩衝ホルマリンの固定時間が6時間未満 72時間以上 2) 未染スライドで6週間以上放置 されていたもの 3) コーティング加工がされていないスライドガラス			
検査受付 時間				
検体採取・搬送・保存				
患者の事 前準備事 項	手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看 護師等の指示に従う。			
検体採取 の特別なタ イミング	治療の前			
検体 の種 類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 未 染 ス ラ イ ド	スライドケース	無	9	枚

	ガラス				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件	室温				
検体受入不可基準	オーダーがない。				
保管検体の保存期間	パラフィンブロック：半永久 ＊保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡				
検査結果・報告					
検査室の所在地	病院棟 3 階 病理診断科				
測定時間	7～10 日				
生物学的基準範囲	該当なし				
臨床判断値	下記ガイドライン（URL）を参照 『ミスマッチ修復機能欠損検出キット_ロシュ MMR IHC パネル判定ガイド_(https://dianews.roche.com/rs/106-RRW-330/images/MMR_IHC_Guide_MC-JP-08381.pdf)』				
基準値				単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
パニック値	高値	該当なし			
	低	該当なし			

	値	
生理的変動要因		該当なし
臨床的意義		近年、免疫チェックポイント阻害剤が臨床応用されており、ミスマッチ修復機能（mismatch repair-deficient : dMMR）や高頻度マイクロサテライト不安定性（microsatellite instability-high : MSI-High）を有する固形癌患者への高い奏効率を示すことが報告されております。 本検査は、ミスマッチ修復（mismatch repair : MMR）タンパク質である MLH1、MSH2、PMS2、MSH6 を免疫染色により検出することで、コンパニオン診断として固形癌患者への「ペムブロリズマブ（商品名：キイトルーダ®）」の適応を判定するための補助および大腸癌における化学療法の選択の補助を目的とした検査です。